

季節限定 風流 流し素麺



夏色 水の音 流しそうめん

総務課 栄養管理係 木村 美穂

今夏 日本列島は猛暑～激暑に見舞われ、各地で今年の最高気温を記録した処もあり、兎に角『あつっ!』『あちっ!』状況。Coronavirus 感染症も第 2 類から第 5 類に変更され 1 年が経過し、オミクロン株「B.A5.」から「KP3.」に変わり“第 11 波”に突入したとの情報もあり、まだまだ新型コロナ感染症収束の兆しが見えません。レク・スタッフは“夏の風物詩で 食欲増進!”を合言葉に、季節を感じ、夏気分を味わってもらいたいとの思いから 8 月 26・27 日『流しそうめん』をおこないました。

連日 屋外では“熱中症警戒アラート”が発令され、朝から快晴で うだるような暑さのため、涼しい室内で開催しました。屋根の軒先に使用される 建築用の雨樋(あまどい)を使用して本格的に素麺を流す台を準備。上流から水を流し ゆがいた素麺を流すという見た目にも 涼風を誘う装置をセットし、麺がスムーズに流れる角度・水の勢いを調整し準備万端。装置に水を流すと非常に涼しげな雰囲気となり、夏色 水の音 流しそうめんセットの完成。

起源をひもとくと 宮崎県高千穂町『高千穂の家』が発祥の地。昭和 30 年前後のお盆の供養をする時に 地元の人が集まって、遊び感覚で竹を割って、湧き水を流し そうめんを食べていた。冷たい湧き水が流れている高千穂峡。今から 70 年前 涼を取ると同時に チョットした遊び心で流した事が始まりで、全国に口コミで広まったといわれています。

職員に付き添われて 2・3 名ずつ交代しながら座席に誘導しました。感染症予防観点より、ソーシャル デスタンスをとり座席の間隔をあけ指定席に着席。利用者の方々には上流より流れてくる麺を掬って 食べていただき、夏の雰囲気味わって貰いました。お箸で素麺をキャッチするのが困難な方には職員がお手伝いをしました。素麺を掬って貰い、自分の席に戻りで食べてもらうという形でおこないました。



冷たくて
おいしい!!

